

2

健やかな明日を拓く、
私たちの“ものづくり”。

道内企業による参入事例紹介

医療機器分野

部品・部材供給分野

福祉・介護機器分野

周辺機器分野

現代の“匠”として、トータルな精密機械加工に携わる

2-1

中央精工株式会社

中央精工株式会社

最先端の複合加工機を備え、設計から製造まで一貫した社内ラインにより精密加工品、カスタムパーツや装置・設備の製作を行っています。4年前の旭川医科大学との共同研究を契機に、精密加工技術を活かした医療機器分野への参入に挑戦しています。

旭川医科大学と「移植用臓器灌流保存装置」試作品開発中

▶ 製品概要

移植用の肝臓や腎臓を最適な条件で保存する「移植用臓器灌流保存装置」の試作品開発を行っています。本装置は、血管内に保存液を灌流しながら、移植用臓器を低温で保存する装置で、灌流液の温度・流量・圧力が容易に設定・管理でき、遠隔操作も可能となっています。移植医療は、高齢ドナーや心停止ドナーなど条件の厳しい臓器に頼らざるを得ない世界情勢にあり、臓器移植を切望する患者さまを支援する装置を開発する！という強い思いをもって開発に取り組んでいます。

▶ 開発ストーリー

契機と なったこと

2015年10月、旭川医科大学で移植関連の装置開発を道内企業と共同開発したいとの要望があり、現場見学会への参加を北海道庁よりご案内いただきました。医療機器というハードルの高さを感じましたが、地元の大学との開発であることと、新規事業への参入という点に興味を持ち、医療現場を見学させていただきました。その際、開発に向けた先生の熱い思いに感銘を受け、当社の技術で挑戦しよう共同研究に参加表明をいたしました。決定には医大による審査もありましたが、幸いこれまでの実績を評価され共同研究をスタートすることができました。

課題と 解決方法

医療機器開発については、さまざまな壁があります。製造認証や医薬品医療機器等法への対応など未経験の部分が多く、一つずつ対応を行ってきました。何処に相談して良いかわからないことも多々ありましたが、北海道庁や北海道経済産業局、ノーステック財団などの皆様にアドバイザーなどの紹介・派遣支援を受け、開発が大きく進んでいます。また、旭川医科大学と良好な関係を保ち、アドバイスをいただきながら改良を進めているところです。

今後の取組み

医療機器の認証取得、上市を目指し、取り組んでいます。



移植用臓器灌流保存装置



精密機械加工部品



製罐・プラント設計

【企業概要】

中央精工株式会社
〒079-8412 旭川市永山2条11丁目1番28号
TEL.0166-48-3639
<http://www.chuo-seiko.co.jp>

代表者 佐々木 工
資本金 1,000万円
創業年 1970年
従業員数 226名 ※グループ会社含む